

平成28年12月16日(金)

老球の細道290号

ホーム&アウェイ

会津バスケットボール協会 室井 富仁

最近平日は孫娘と一緒にいる時間が家族の中で私がNO1になった。もちろん量的な時間だけで密度の濃さは両親や婆様とは比べものにならないが・・・。

わが子が小さかった頃は人呼んで「意気地(育児)なし」と呼ばれていたもので、わが子が孫のような年齢の時、わが子たちはどのような振る舞いをしていたかは定かではない。後悔するのは、もう少し子育てに携わっていたら、孫育てにも経験値が活かされていたのと思うことである。今は孫の行動が驚きと発見、感動の連続である。

わが家の孫は自宅にいるときは「帝王」「独裁者」と化し、言いたい放題、やりたい放題でトランプ氏など問題にならない。すべてが自分の思うようにいくように周囲をコントロールする。宅急便のお兄さんや郵便屋さんなど来客が来ると、俄然自己アピールが激しくなり見知らぬ人誰にでも笑顔とあいさつを忘れない。私と違って満2歳にして社交性抜群で将来楽しみだと爺馬鹿ぶりで周囲に自慢している。ところが最近気になることがある。よその家に行くとわが家で示したテンションがトーンダウンする。孫娘は孫娘で自分なりに「ホーム&アウェイ」をすでに意識し始めているのだろうか。

先日郡山総合体育館においてB2リーグ第11節「福島ファイヤーボンズ対鹿児島」のカンファレンス交流戦があった。現在東地区2位の福島と西地区最下位の鹿児島とでは実力差は歴然としているようだが延長戦にまでもつれた。ゲーム前のダイレクターミーティングでは、鹿児島のコーチは早く負けを決めて新幹線に乗らないと今日中に鹿児島まで帰れない、と弱気なコメントを発していたがジョークだった。

ゲームが始まるとおおかたの予想に反して鹿児島は奮闘した。よもや勝つのではと思われたが福島が最後に猛反撃し延長戦へ突入。延長でも最後まで大接戦になり、福島が2点差リードでゲーム終盤に入ったが、鹿児島に3回の同点、逆転のチャンスがあった。ところが観客の大ブーイングに合い3回ともチャンスを逃がす。特にゲーム終了0.5秒前にフリースローを獲得。鹿児島選手は福島ブースターのものすごいブーイングのもとで2本とも外し万事休す。観客全員を敵にまわすアウェイでの勝負の難しさを思い知らされた。ゲーム後の記者会見で、鹿児島のコーチは「戊申戦争では薩摩がアウェイの会津で勝ったのですが、今回は負けました」などと話していた。私将会津の人間とも知らずに。

国の代表チームは当たり前だが、ミニ、ジュニア、高校の試合も勝てば勝つほどアウェイで戦うことが多くなる。応援のみならず、土地、体育館、人間関係など普段の環境と違った状態で試合をしなければならない。アウェイの環境にあっても平常心でプレイできるように日頃からバスケット、日常生活の中で訓練、準備をしなければならないだろう。

よその県のチームと、知らないコーチのチームと戦う。知らない人たちと積極的にコミュニケーションをとる。特にコーチ自身がそのような場面を積極的に求めて行くことが選手に良い影響を与え、アウェイでの色々なプレッシャーに打ち勝つ経験を積める。

「いざという時に日常があらわれる。いざという時にファンダメンタルがものをいう」。いざという時はとかくアウェイの環境で起こりえる。日常生活の中で意識的にアウェイの状態を求めて訓練、準備することが必要だろう。